

## B. 災害調査

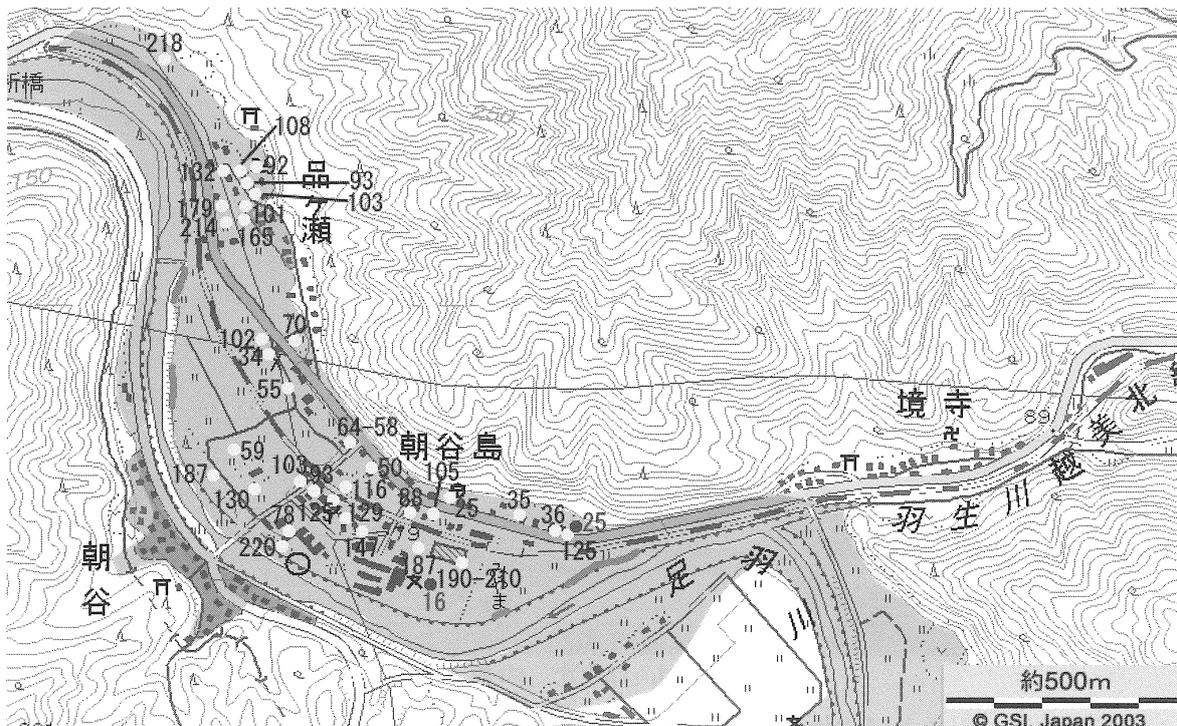
### 1. 2004年7月18日 福井豪雨水害調査

廣内 大助

平成16年7月18日、福井県北部の嶺北地方において集中豪雨が発生した。死者行方不明者5名、全半壊家屋は200世帯を数え、橋梁の流出7箇所など大きな被害が発生した。これを受けて、被害の著しかった足羽川中・上流部において、浸水範囲や洪水堆積物調査、被害調査を実施した。本調査は名城大学理工学部環境創造学科掘研究室と共同でおこなった。

当日の降水量は福井市から美山町にかけての足羽川流域において著しく多く、美山町では、最大時間雨量87mm、7月18日における24時間の積算雨量は283mmに達している。同様に福井市でも最大時間雨量75mm、24h積算雨量197.5mmを記録している。足羽川流域では短時間の降水が河道に集中し、破堤、越流などが多数認められた。特に市波や越前高田、美山、小宇坂などでは、穿入蛇行する河道をショートカットする形で、水流が谷底平野を横切っており、滑走斜面側に多くの掃流物質を堆積させた。流域に残された堆積物の層厚は数十cmであるが、最大で150cm(大久保)に達している。

湛水深は多くの地点において3mを越えている。湛水深は、大久保やうそヶ口、東河原など特に狭さく部とその上流側で、大きくなる傾向が認められた。また橋梁や取水堰の上流側で破堤や越水が多く認められている。これは橋梁や堰に流木などの掃流物が引っかかり、堰止めによるダムアップによって越流もしくは破堤につながった可能性が高い。



(福井県美山町中心部の氾濫域トーンの部分、数字は湛水深) 廣内・堀(2004)より引用